

2004年2月16日

会社名 株式会社 大丸
 コード番号 8234
 代表者名 取締役会長 奥田 務

2004年1月度 大丸 連結営業報告

1. セグメント別売上高対前年増減率(%)

	1 月 度	9 ~ 1 月 累 計
百貨店業	9.0	6.5
スーパーマーケット業	1.3	2.7
卸 売 業	4.9	4.8
その他事業	10.3	21.1
連結合計	5.8	2.4

(注) 売上高にはその他営業収入を含めていない。また、各事業の売上高には連結会社間の売上高を含む。

2. 百貨店業 売上高概況

1) 店舗別売上高対前年増減率(%)

	1 月 度		9 ~ 1 月 累 計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
心齋橋店	2.1	0.9	0.9	0.5
梅田店	4.0	0.4	0.6	0.1
東京店	0.0	4.6	1.9	3.4
京都店	2.3	6.3	0.3	4.9
山科店	2.1	-	1.2	-
神戸店	4.1	4.0	1.4	0.7
新長田店	7.9	-	8.2	-
須磨店	4.3	-	3.4	-
芦屋店	0.2	-	2.6	-
札幌店	-	-	-	-
直営10店舗計	12.2	-	8.6	-
" 除く札幌店	2.3	0.9	0.2	0.0
博多大丸	3.3	-	1.0	-
下関大丸	2.8	2.9	0.2	1.6
高知大丸	2.9	9.4	3.4	7.9
今治大丸	0.8	0.7	2.2	0.2
百貨店業合計	9.0(1.5)	-	6.5(0.2)	-

(注) ・博多大丸は前年3月より長崎大丸を統合したため、対前年増減率は長崎大丸分を含む。
 ・直営店の入店客数合計の対前年増減率は、心齋橋、梅田、東京、京都、神戸の5店計である。
 ・百貨店合計売上高の()内数値は、除く札幌店の既存店対前年増減率。

2) 札幌店(単位:百万円、千人)

	1 月 度		9 ~ 1 月 累 計	
	合計	入店客数	合計	入店客数
実 績	3,471	1,741	16,932	8,322

(注) ・中間決算発表時に下期目標値を、従来の173億円から185億円に上方修正。

(売上動向)

- ・1月は31億円の目標に対して3,471百万円で12.0%増であった。
 9~1月累計では、上方修正した目標に対し、932百万円(5.8%)上回っている。
- ・2日からのクリアランスセールは、初日の入店客数が109千人とゴールデンウィーク以来の10万人超になるなど大盛況であった。特に、ヤング、ヤングアダルトの婦人服・雑貨が売上を伸ばした。また、菓子・惣菜など食品及びレストランは、依然好調を継続。

3) 直営店 商品別売上高対前年増減率(%)

	1 月 度		9 ~ 1月 累 計	
	合計	除く札幌店	合計	除く札幌店
紳士服・洋品	8.3	1.8	6.6	0.1
婦人服・洋品	11.4	2.0	8.6	0.6
子供服・洋品	9.7	0.9	7.3	0.6
その他の衣料品	10.1	4.7	5.5	0.3
衣料品計	10.6	2.1	8.0	0.4
身の回り品	15.7	3.8	11.1	0.2
家具	14.3	5.6	10.7	2.8
家電	35.9	35.9	21.0	21.0
その他の家庭用品	6.0	1.1	4.9	0.7
家庭用品計	5.4	1.6	4.5	1.3
食 料 品	13.5	0.8	8.1	0.7
食堂・喫茶	22.0	3.5	17.4	6.5
雑 貨	15.1	7.5	7.5	1.7
サ ー ビ ス	30.3	26.5	39.2	35.6
そ の 他	4.4	8.5	2.5	1.8
合 計	12.2	2.3	8.6	0.2

3. 概況

1) 百貨店業

- ・ 1月の単体の売上高は、対前年12.2%増、除く札幌店では、同2.3%増であった。
- ・ 本年の土曜日が1日多いことも加わり、定価売上が心齋橋・京都・神戸店が前年を大幅に上回ったほか、クリアランスセールがファッション部門(婦人及び紳士服・洋品)を中心に好調であったため、主要5店舗全てが前年売上高をクリアした。
- ・ 特に好調な商品は、ハンドバッグ、婦人靴、スポーツウエア、紳士雑貨、洋菓子、生鮮食品などであった。
- ・ 関係百貨店では、10日以降の岩田屋本館の閉館売り尽くしセールの影響を受けた博多大丸以外の売上高は前年を上回った。

2) その他

- ・ スーパーマーケット業の大丸ピーコックの売上高は、対前年1.3%であった。食品は同0.9%と微減、衣料品、家庭用品など食品以外は同3.4%減。地区別では関西地区(千里プラザ除く)の売上が対前年2.1%、関東地区は同0.1%であった。
- ・ 卸売業の大丸興業売上高については、リフォーム・建設資材や農水産物などの受注減により、対前年4.9%であった。
- ・ その他事業が前年を大きく下回った(10.3%)のは、主に大丸装工による前年の札幌店内装関連の受注の反動減によるものである。

お問い合わせ先	株式会社 大丸グループ本社	広報・IR推進部
	TEL	06-6281-9002
	FAX	06-6245-1343